

## 富山地方気象台長からのご挨拶

富山地方気象台のホームページをご覧ください、ありがとうございます。令和4年4月1日に台長に就任しました田中恵信（たなか よしのぶ）です。

富山県は、立山連峰頂上から富山湾海底最深部までの高度差は4000mを超え、黒部川、常願寺川、神通川、庄川、小矢部川をはじめ、多くの河川が富山湾に栄養分を注ぎ豊富な海産物を育み、扇状地と肥沃な富山平野を形成しています。このように周囲を山と海に囲まれ、非常に変化に富んだ素晴らしい自然環境を有していますが、それ故に特徴的な自然災害も時として起こります。

富山県の気象の特徴の一つに、春季の南寄りの強風があります。この季節、低気圧が発達しながら日本付近を通過することが多くなり、通過時には県内ほぼ全域で強風が吹き荒れ、フェーン現象による気温の上昇と空気の乾燥等の発生がみられます。先日、令和4年3月26日でも発達した低気圧に伴い、強い南寄りの風が吹き八尾で観測史上1位の最大瞬間風速35.7m/sを観測しました。小矢部市で21棟の火災が発生したほか、交通機関に大きな乱れや停電などの被害が発生しました。

富山県地域防災計画によりますと、富山県では断層型の地震による津波が想定されており、糸魚川沖の断層、富山湾西側の断層、呉羽山断層帯の地震による津波のシミュレーション調査で非常に大きな津波が到達するという結果になったとされています。津波警報・注意報が発表されたときは報道や緊急速報メール、津波フラッグ等でお知らせしますのでご活用をお願いします。

なお、主に冬季、北海道の西海上では北よりの暴風に伴って発生した高波（波浪）がうねりとして南へ伝わり、富山湾特有の海底地形の影響で「寄り回り波」が発生することがあります。平成20年2月24日に発生した寄り回り波による甚大な被害を踏まえ、関係機関とともに防災体制を強化しており、日々その予測にも取り組んでいます。

また、富山県で最も特徴的な気象は豪雪でしょう。平成29年度の大雪災害を契機に災害時に富山県へ当台職員を派遣する取り組みを始めました。富山県内の交通インフラ等に大きな影響を与えた令和3年1月の記録的な大雪でも富山県への支援を行いました。令和3～4年の冬季には、気象庁から大雪に関する新たな情報「今後の雪」や「顕著な大雪に関する情報」の発表業務を開始し、今年起きた県内の大雪にも対応しました。



地域の防災活動の支援を強化するために富山地方気象台の体制を令和2年度末から強化し、関係機関との一層の連携を図っています。地域に特徴的な災害を見つめて防災気象情報の発表や災害に関する知識の普及・啓発等を行い、地域に根差した防災活動に取り組んでまいります。

令和4年4月

富山地方気象台長 田中 恵信